

## グアテマラと日本をつなぐ 第二回

### 子育てにどっぷり浸かっている今、グアテマラを思い返してみると グアテマラ女性の自立を伝統織物の継承発展から支援する会（C A D E N A） 佐々木恵理子

グアテマラがいいなあと思う事は、結婚しても名字が変わらない事。あちらでは名前も名字も二つあるのが一般的なようでしたが、名字はひとつずつ、両親から譲り受けます。そして結婚すると、その名字の後ろに、de 誰々、というように夫になった人の名字を増やします。長い名前がますます長くなりしますが、結婚して名字が変わると、不便な事が多いのでうらやましいです。夫婦別姓よりこっちの方が使いやすいような気がします。

日本は少子化と言われていますが、グアテマラにはたくさん子供がいます。私の下宿先には5人子供がいて、下の二人は本当の子供ではなく、お母さんが亡くなってしまった子供を引き取って育てていました。キリスト教徒であるからだと思いますが、養子をとることに対する抵抗も薄いようでした。食事をさせてもらっていた家でも、貧しい家の子供に手伝いをさせて、その代わりに食事を与えていました。

手伝いと言えば子供は少し大きくなるとみんなよく働きます。日当がもらえるので小学生も高学年になると働きに出る子供が多いようです。そうすると、必然的に学校には足が遠のいてしまいます。中学に行ける子供はとても恵まれてるのでしょうか。

そういえば私の下宿先の夫婦は正式な夫婦ではなく、本当はお父さんには別に奥さんがいます。正式な妻は別の場所で暮らしていました。カトリック教徒なので離婚が許されないために仕方ないのでそうしているのかどうかまでは私にはわかりませんでした。お母さんは結婚はしていないけれど “juntamos(一緒にいる)” と言っていました。

そしてグアテマラではこの juntar している人がたくさんいます。正式に結婚はしていないけれど一緒にいる、日本で言えば同棲ですね。また内戦の影響で成人男性の数が少ないのか、ラテンの血で浮気者が多いのか、グアテマラでは未婚の母も多いです。結婚していないはずなのになぜかどんどん子供の数が増える人もいました。勿論家族思いの優しいお父さんもいます。でも働きながら子供を育てている女性が多いと思います。子育てだけでも大変なのに、しかも電化製品による家事労働の軽減という援助もなしでいいなあと感心します。まして保育園なんてないし。とても真似出来ません。

またグアテマラでは布でくるまれて背中に背負われている子供を良く見かけます。むこうで見ている時は、あああ、あんな布にぎゅっと包まれて息はできるのだろうか、動けないし、かわいそうになあと思っていました。働かなくてはいけないから仕方なく背負っているんだろうなあと勝手に思い込んでいたのです。

しかし、次男を産んだ後、「これはとてもいいから使ってごらんよ。」と教えてもらった“スリング”と呼ばれているだっこひもは、子供の位置が前後の違いはあるものの、使ってみるとあの布とそっくりです。そして、驚いた事にスリングを使ってだっこすると赤ん坊はよく眠るのです。布に包まれてしまうので確かに身動きは取れないようですが、それが却って安心するのでしょうか。だっこしてしばらくすると、不思議な事にぐっすり眠ってしまいます。そしてだっこしている方も、肩が凝らずに疲れにくいという母にも子供にも素晴らしいものでした。見た目では判断していた、自分の勝手な思い込みだったのです。しかし

くら疲れにくいとは言っても、長い時間おんぶしているのは大変です。できればグアテマラでもおんぶしたまま仕事をしなくてもいいような環境になればいいのと思います。

しかしスリングを使ってだっこしている子供を一時的に後ろに回す事はできるようですが、グアテマラの布を使ったおんぶのようにはいきません。だっこだとどうしてもできる作業が限定されるのでおんぶができるといいなあと思います。体力的に三人目は無理なのでもう使う事はないと思いますが、興味があるので次回行ったら聞いてみたいと思います。(2005年8月28日 掲載)

この文章を寄せてくださった佐々木さんは CADENA という組織の活動に参加しています。是非そちらのサイトもご訪問ください。

グアテマラ女性の自立を伝統織物の継承発展から支援する会 (CADENA)

<http://www.h5.dion.ne.jp/~cadena/>